

# 日本アトマイズ加工

年内にフル生産体制

工場 下工程、建屋増設も

日本アトマイズ加工（本社：千葉県野田市、木嶋正憲社長）は、つくば工場茨城県牛久市）の生産体制強化に注力する。電子部品向けの微細金属粉末で、2014年内にも年産150トのフル生産体制に移行する見込み。生産量の増加に合わせ、検査・梱包・倉庫などの下工程を行う建屋・設備の導入を計画しており、15年度中の着工・完成を目指す。また、ガスアトマイズ用の製造設備なども導入し、多様な顧客ニーズに対応する。

アトマイズ法は高コストだが粒形が丸く、酸化しにくいなどの特徴がある。素材・粒径・粒形など、ユーザーの多様な要求に幅広く対応できる体制を整える。

12年に稼働を開始したつくば工場は、主に積層セラミックコンデンサー（MLCC）や、インダクターなどの各種電子部品に使われる銅や銀、鉄系合金の微細粉末を生産する。ユーザーによる品質認定を順次取得して来たが、今期中に従業員の勤務シフトを現在の2交代から3交代へ変更し、当初計画の年産150ト超ペースの生産体制に移行できる見込みとなった。

生産量の増加に合わせ、製造棟の横の敷地に品質検査・梱包・倉庫など下工程の機能を持つ建屋を増設する。現在つくば工場では製造工程までを行い、下工程は本社工場で行っている。輸送にはトラックで40分程度の時間を要するため、一貫化により業務効率の改善を図る。顧客からは品質管理の徹底という面からも、一貫化を望む声が多かった。

同社は主に水アトマイズ法による金属粉末製造を行うが、今後つくば工場内の空きスペースを利用し、ガスアトマイズ用の製造設備の導入も計画する。ガス